

## COMMENT



## フレーベルの思いを受け継ぐ「森の探検隊」

かえで幼稚園園長  
中丸 元良 様

約180年前、ドイツで幼児のための一つの施設が開かれました。フレーベルという人がはじめた“Kindergarten”です。Kinderは子ども、Gartenは庭もしくは園なので、この言葉は日本に伝わって「幼稚園」と訳され、今日に至っています。Kindergartenは、遊びを通じて子どもが本来持っている良さを引き出そうという、これも今の幼稚園にそのまま通じる考え方で営まれていました。

ところで、フレーベルはなぜこの施設に Haus(家) でも Schule(学校) でもなく Gartenと名付けたのでしょうか。彼が屋外にこだわった理由を私なりに考えてみると、まず、自然は多様で、人間の思い通りにはなりません。その中で生きものは自分の力で自分らしさを目指して育ちます。人間ももちろんその一員です。フレーベルは子どもたちに、自然から学びなさい、自然の中で育ちなさい、と伝えたかったのではないのでしょうか。

文明が進むと、ともすると自然も人間の力で支配できると思ったり、自然がなくても生きていけると勘違いしたりしがちですが、感性の鋭い子ども時代こそ自然からたくさんものを受け取り、自然の中の一員という感覚を育ててほしいと思います。「森の探検隊」は、フレーベルの思いを受け継ぐ活動。私たち幼稚園も、同じ根を持つ立場として応援していきたいと思っています。



見たり感じたりしたことを創作で発表

## COMMENT



広島県安芸太田町  
税務課長 小笠原 敏子 様  
(元 地域づくり課長)

棚田へ抜けるトンネルから、「やっほー」と、子どもたちの声が聞こえてきます。

「井仁の棚田」は、広島県の安芸太田町にある、人口40人余りの小さな集落で、ここには、500年以上前から棚田を代々耕し守り継いできた人の営みと自然が織りなす里山の原風景があります。

「森の探検隊」の子どもたちは、棚田で初めて自発的に学び、そこに息づく生きものと自然の恵みを知り、発見したのかもしれない。その体験や感動が情報発信となり、共感とつながりから生まれる活動や喜びが、里山の持つ人や自然、文化、歴史などの地域資源の魅力や価値を最大限に引き出し、未来へつなげる地域活性化の推進力になっていると感じております。

今後も次世代を担う子どもたちの活動を応援するとともに、共に里山の未来を創っていく仲間として協働のまちづくりを進めてまいりたいと思います。「ここは、未来のあなたのふるさとです。」

## COMMENT

## 「森の探検隊」活動協力スタッフ



広島大学大学院  
教育学研究科  
淀澤 真帆 様

森の探検隊で、子ども達は初めての環境に1人で飛び込んで1日を過ごします。はじめは不安もあるようですが、仲間と共に活動する中で、いろんな感情を体験し、ぐんぐんと大きくなっています。

スタッフのみなさんの入念な準備とあたたかい声かけや見守りがあるからこそ、子ども達はいきいきと探検隊に取り組めるのだと思います。



日本保育学会でのポスター発表(淀澤さんとスポーツメディアの共同研究)